



報道関係 各位

2012年12月21日
CIHA 鳴門コロキウム実行委員会
大塚国際美術館

国際美術史学会、鳴門コロキウムの開催

Between East and West: Reproductions in Art (洋の東西の美術における複製)

《取材のご案内》

2013年1月15日(火)～1月18日(金)

「複製」に関する世界最新の研究成果を陶板による複製の美術館で集約する画期的な催し
大家から新進気鋭まで国際的美術史研究者が来日し、日本の研究者と交流
英語標準化の実践と日本の次世代研究者育成の促進

謹啓 報道関係の皆さまには日ごろより何かとご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

国際美術史学会(Comité international d'histoire de l'art, 略称 CIHA)のコロキウム(研究集会) Between East and West: Reproductions in Art(洋の東西の美術における複製)が、CIHA 国内委員会、大塚国際美術館、美術史学会の主催で、2013年1月15日～18日に大塚国際美術館(館長:大塚明彦、所在地:徳島県鳴門市)で連続休館中、貸切にて開催されます。

国際美術史学会は1930年に設立された組織で、世界各国の美術史研究者が集う世界大会(4年に一度)とコロキウムを定期的に行っています。もともとはヨーロッパと北米中心の学会でしたが、最近ではアジア、アフリカ、オセアニアなどの地域にも範囲を広げ、グローバルな規模で美術史研究の振興を目指しています。日本におけるコロキウム開催もその流れのなかで、国際美術史学会日本国内委員会によって企画されました。今回のコロキウムにも、ウルリヒ・グロスマン会長を始めとする国際美術史学会事務局の中心メンバーが来日されます。

この鳴門コロキウムは、1991年に開催された東京コロキウム Japan and Europe in Art History(美術史における日本とヨーロッパ)以来、22年ぶりに日本で行われる CIHA のコロキウムです。複製をテーマにした大規模で本格的なシンポジウムを、世界で初めて開催するという点で注目に値します。と同時に、世界における日本の美術史学のプレゼンスを示すという意味において、きわめて意義の高い催しとなります。

このコロキウムでは「複製」という言葉を広い意味で捉え、コピー(模写)、レプリカ(模造品)、リメイク(再制作)、フェイク(贋作)など、さまざまな概念やタイプの「複製」が論議の対象となります。そ

これは現代のデジタル画像にまで関わる最近の重要課題であり、それに相応しい会場（陶板による複製の美術館）で扱うこともまた深い関心を集めています。しかも、美術における「複製」の捉え方、位置づけは、日本を含めた東アジアと西洋諸国では違いがあり、比較の視点、文化交流的な視野から問題を深めることも期待されています。

研究発表は、「西洋美術」（13名）、「東アジアと日本の美術」（9名）、「美術史における比較と文化交流のアプローチ」（7名）の三つのセクションに分かれています。各々のセクションの最初には基調講演が置かれ、広い視野から美術における複製に対する問題提起を行います。発表者たちが扱うのは、地域的には西洋と東アジア・日本、時代としては古代から現代まで、対象としては洞窟壁画にはじまり建築、彫刻、絵画、版画、写真にいたる多種多様なメディアです。視点もきわめて多彩であり、教育、制度、政治から複製の問題に取り組む者、オリジナリティや「真正性」との関わりで分析する者、さらには著作権をテーマにする今日的な発表まで含まれます。

プログラムを構成するのは、日本を含め世界16カ国の多数の応募者から厳選した25名の発表者に基調講演3名、招待発表者4名を加えた、計32名による研究発表です。世界有数の大学、研究所、美術館に所属する優れた研究者が多数参加し（オックスフォード大学、ニューヨーク大学、メルボルン大学、ゲルマン国立美術館、パリ西大学、北京中央美術アカデミー、東京大学、京都大学等々）、質の高い充実した成果が予想されます。また一般参加者に加えて、特別に博士課程の大学院生40名に対して参加費の援助を行い、若手研究者育成の場とすることも新しい試みです。外国人研究者30名余に日本人発表者、組織関係者、一般参加の研究者や大学院生を合わせると、全体で100名余の参加者が見込まれます。

今回のコロキウム の発表と司会は原則としてすべて英語で行われます。現今の学問の国際化状況を考えたとき、美術史研究者にとってもコミュニケーション言語として外国語（特に英語）を用いることは必須といえますので、多国籍の研究者が集う本コロキウムも、英語を使用言語とすることにしました。

以上のように、世界水準の研究集会を日本で開催することは、わが国の美術史学の発展に大いに貢献するものと関係者一同確信しています。なお、1月15日（火）の開会式では、ご自身が美術史研究者でもあらせられる彬子女王殿下から御挨拶を賜り、殿下は引き続き翌日もコロキウムにご臨席される予定です。

この意欲的な学術事業を各新聞社や報道メディアに広く取り上げていただきたく、ここにご案内させていただきます次第です。

なお、本コロキウムのプログラム等の詳細は、CIHA Home Page <http://www.ciha-arthistory.org/> あるいは <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/CIHA/> でご覧ください。

以下に当日の概要をご案内します。つきましては報道関係の皆さまには、お忙しいなか誠に恐縮ですが、ぜひご取材賜りますようご案内申し上げます。

謹 白

国際美術史学会、鳴門コロキウム 取材申込書(Fax:088-687-1117)

- 【会 期】2013年1月15日～18日
 【主 催】CIHA 国内委員会、大塚国際美術館、美術史学会
 【協 賛】一般財団法人大塚美術財団、公益財団法人鹿島美術財団
 【学術協力】東京大学大学院人文社会系研究科
 【スケジュール】

15日(火)

- 15時30分～16時30分 《報道関係者 受付》
 16時30分～17時30分 《開会式 システィーナ・ホール》
 挨拶 大塚国際美術館 館長 大塚明彦(5分日本語挨拶後に、英語通訳)
 挨拶 CIHA 代表 ウルリヒ・グロスマン(5分程度、英語)
 来賓挨拶 彬子女王殿下(5分程度、英語)
 講演 実行委員長 小佐野重利(25分程度)

18時 《歓迎 Buffet Party》

16日(水) 9時～18時50分 《研究発表》

17日(木) 9時～17時30分 《研究発表》

18日(金) エクスカーション

ご取材いただける方は、お手数ですが **1月14日(月)まで**にご返信いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。

- * なお、撮影位置は先着順とさせていただきます。ご了承くださいませようお願いたします。
- * いずれも撮影可能です。ただし、発表中の取材に制限があり、ご不便をお掛けする場合がございますがご容赦ください。またフラッシュの使用はご遠慮下さい。
- * ご取材中は、必ず社名の入った腕章を着用してください。

取材する

取材しない

撮影あり【ムービー()台/スチール()台】

貴 社 名			
お 名 前		参加予定人数	名 様
ご 連 絡 先		メールアドレス	

《本件に関するお問い合わせ先》

CIHA 鳴門コロキウム実行委員会 委員長 小佐野重利 / 事務局長 三浦 篤 ciha@l.u-tokyo.ac.jp

《取材申し込み先》

大塚国際美術館 学芸部 広報担当：坂本明子 TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117